

## 日本各地の偏角値

## 都道府県庁所在地の偏角値一覧

表1は、それぞれ1970年、2000年、2010年、2015年の都道府県庁所在地の偏角値です。また、表には2010年から2015年の5年間の変化量と1970年から2015年の45年間の変化量もあわせて示しています。全国平均で、過去5年間に約0.3度、過去45年では約1.1度、西向きの偏角がそれぞれ大きくなったことが分かりました。また、変化の割合も一定ではなく、東日本では2000年から2010年の間は変化が一旦停滞しているのに対し、西日本では1970年から2015年まで停滞することなく増加し続けていることが分かります。現在、日本で最も偏角の大きい場所は北海道中頓別町の敏音知（ぴんねしり）で約11度となっています。逆に、偏角が最も小さいのは南鳥島の約0度で、日本で唯一、方位磁石の北と地図の北が一致する場所となっています。

表1 都道府県庁所在地の偏角値

都道府県庁所在地	1970	2000	2010	2015	変化量	
					5年間	45年間
札幌	8.7	9.3	9.2	9.4	+0.2	+0.7
青森	7.7	8.3	8.3	8.4	+0.1	+0.7
盛岡	7.5	8.0	8.0	8.3	+0.3	+0.8
仙台	7.3	8.0	8.0	8.3	+0.3	+1.0
秋田	7.8	8.3	8.3	8.5	+0.2	+0.7
山形	6.5	7.0	7.2	7.2	+0.0	+0.7
福島	6.8	7.5	7.5	7.7	+0.2	+0.9
水戸	6.3	7.0	7.0	7.2	+0.2	+0.9
宇都宮	6.7	7.3	7.3	7.6	+0.3	+0.9
前橋	6.7	7.3	7.3	7.7	+0.4	+1.0
さいたま	6.3	7.0	7.0	7.3	+0.3	+1.0
千葉	6.2	6.8	6.8	7.2	+0.4	+1.0
東京	6.3	6.8	7.0	7.3	+0.3	+1.0
横浜	6.3	7.0	7.0	7.3	+0.3	+1.0
新潟	7.3	8.0	8.2	8.4	+0.2	+1.1
富山	7.0	7.7	7.8	8.0	+0.2	+1.0
金沢	7.0	7.5	7.7	8.0	+0.3	+1.0
福井	7.2	7.7	7.8	8.1	+0.3	+0.9
甲府	5.5	6.0	6.2	6.3	+0.1	+0.8
長野	6.7	7.3	7.3	7.6	+0.3	+0.9
岐阜	6.5	7.2	7.3	7.8	+0.5	+1.3
静岡	5.8	6.5	6.5	6.9	+0.4	+1.1
名古屋	6.3	7.0	7.2	7.7	+0.5	+1.4
津	6.2	6.8	7.0	7.3	+0.3	+1.1
大津	6.5	7.2	7.3	7.6	+0.3	+1.1
京都	6.5	7.2	7.3	7.6	+0.3	+1.1
大阪	6.2	6.8	7.0	7.3	+0.3	+1.1
神戸	6.3	7.0	7.2	7.5	+0.3	+1.2
奈良	6.3	7.0	7.2	7.5	+0.3	+1.2
和歌山	6.2	6.8	7.0	7.4	+0.4	+1.2
鳥取	7.0	7.7	7.8	8.4	+0.6	+1.4
松江	6.8	7.5	7.7	8.1	+0.4	+1.3
岡山	6.5	7.2	7.3	7.5	+0.2	+1.0
広島	6.3	6.8	7.2	7.4	+0.2	+1.1
山口	6.2	6.8	7.0	7.3	+0.3	+1.1
徳島	6.2	6.8	7.0	7.3	+0.3	+1.1
高松	6.3	7.0	7.2	7.5	+0.3	+1.2
松山	6.0	6.7	6.8	7.2	+0.4	+1.2
高知	6.0	6.7	7.0	7.3	+0.3	+1.3
福岡	6.0	6.7	7.0	7.4	+0.4	+1.4
佐賀	5.8	6.5	6.8	7.2	+0.4	+1.4
長崎	5.5	6.2	6.5	6.8	+0.3	+1.3
熊本	5.5	6.2	6.5	6.7	+0.2	+1.2
大分	6.0	6.7	6.8	7.2	+0.4	+1.2
宮崎	5.3	6.0	6.2	6.6	+0.4	+1.3
鹿児島	5.5	6.2	6.3	6.8	+0.5	+1.3
那覇	3.5	4.3	4.7	5.0	+0.3	+1.5
全国平均	6.4	7.0	7.2	7.5	+0.3	+1.1

※表中の値は度単位。例えば、変化量「+0.2」は、磁北が西に0.2度傾いたことを表す。